

Okahata

NEWS LETTER

Business updates, new ideas and more
from Okahata

2021

11



007、呼んでみました

今月も読んでいただき、ありがとうございます!

リアル“ちわ〜っす”
(面談、出張、食事会のことです)が急増中、
デジタル三河屋店主、
岡畑典裕です。



お顔を見ながらの濃ゆい会話(と、きめ細かい泡の生ビール🍺)って、このために仕事してんだなーっていう、ただただ良い。

今月の写真は、**久々の全員出社イベント**から。弊社プロモ YouTube(こだわりを形に、Karvo)でお馴染みプロフォトグラファーの**小関信平さん**を招いて“岡畑興産の今”を撮ってもらいました。さすが山岳カメラマン!ジェームス・ボンドが如く、本社屋根を走り回りながらの**集合写真**。おふざけありな**ポートレート撮影会**(マッチングアプリにもどうぞ・笑)も盛り上がり、一足早い忘年会っぽい、良い懇親となりました。

こだわりを形に [LINK ▶ https://youtu.be/YWXTOfZz_oU](https://youtu.be/YWXTOfZz_oU)

軽くて高反発Karvo [LINK ▶ https://youtu.be/qJHzjHQnmS4](https://youtu.be/qJHzjHQnmS4)

早速、今月のONLにもポートレート使っておりますので、お楽しみに(ムフフ)

今月の特集記事は、ONLの原点でもある“世界の今”、を伝えます。デジタル三河屋ならぬ、**グローバル三河屋**の岡畑興産の海外拠点/個会社から、混乱する世界のサプライチェーン(ベトナムの靴生産のリアルと、中国電力制限の今)を現地レポート。今月もお付き合いください!

フットウェアからは

ベトナムの 靴サプライチェーン 立て直しレポ。(米本)

(ONL17ご紹介の弊社シューズ、トップの集合写真でも“チラ見せ”中。詳細は来月のお楽しみに)



ベトナムは、世界の靴生産のメッカであり、弊社靴受託のホームグラウンド。そのベトナム、ホーチミン市が今回の震源地。7月中旬、首相のロックダウン指示により、不要不急の外出禁止、公共交通機関の停止、飲食店の営業停止が始まりました。通勤も生産も許されているはあるものの、工場の操業停止につながっていくロックダウンの始まり。

靴工場は典型的な労働集約産業、大規模工場となると3~5万人もの工員が就労しています。感染が出た地域からの従業員の出勤は禁止されますので、人流を止めるのがベストと判断し、従業員を工場敷地内でテントに宿泊させ、労働力の確保を図りました。“動くな、ここにいなさい、そして稼働を続けましょう”式で始まった、ロックダウンの中の生産ですが・・・

想像してみてください、何万人もテントに詰め込み、通勤させずに操業を続けるのには、無理があります。従業員の衛生上にもよくないですし、密の中で感染リスクも高まります。結局、この対応は長くは続かず、すべての靴工場が休業に追い込まれ、従業員のすべてが自宅待機もしくは地元に戻っていくこととなりました。



弊社パートナー靴工場はハイフォン（ベトナムの北東）に位置しており、南のホーチミンから遠く離れているので操業停止は免れましたが、影響ゼロというわけにはいきません。一部原材料はホーチミンのメーカーから調達しており、特にソール成型品などは入荷されず、製品を作りたくても作れない。従業員も確保し、生産準備万端。なのに、作るための材料が届かない、という状況が続きました。**ホーチミン市のロックダウンが、1500kmも離れたハイフォン生産を止め、ベトナム全土の靴生産をストップさせたのです。**



ホーチミンのロックダウンはかれこれ約4カ月も続き、ようやく10月下旬に解除。11月上旬時点では、自宅待機、実家に戻っていた従業員が100%工場に戻っておらず、稼働率は60%程度の状況。

すでに別の就職口を見つけた人、戻りたくてもワクチン接種証明がなく工場に入れられない者、まだ人混みは怖いと思っている人など、事情はさまざまで、従業員の帰還率=工場稼働率、となっています。

ハイフォンの受託工場は、みかけの稼働は100%ながら、原材料の調達遅れで80%稼働率にとどまっています。アッパー縫製はフル稼働するも、ソールが届かず、縫製アッパー半製品が製品倉庫まで埋め尽くすような状況。

人はいるけど、材料がない。。。救いは、**需要が旺盛**であること。欧米の経済活動再開の動きを受けて、大手ブランドからの発注は殺到中。靴工場としては、トップギアで生産再開をさせたいのですが、全ての需要を満たせない、歯痒い状況です。大手ブランドも、ベトナム現況を受け、“調達できないものは出来ない”、と調達製品の選択を行い、生産計画の見直しに着手しました。需要があるのに、間引かなければいけないというブランドと、減産を強いられる工場。

そんな苦境の中でも、ロジスティックの強みを活かせば、やれることはまだまだある!と現地駐在員、海外個人会社が逞しく業務奮闘中です。

取材協力:

矢島洋介(ベトナム)、Joanna Lei(台湾)、三反園悠太(日本)

取材・文／

岡畑興産株式会社
フットウェア事業統括
米本 弘



世界の荒波には慣れてしています。
最適目的地へのパイロット役を心掛けています。

化学品からは

中国電力制限と 中国品供給のリアル^(坂出)

中国



例の如く、省別市別で対応が異なり、メーカーの対策もさまざまで、我々も安定調達対策に苦慮しておりますが、まずは、各省の現状を；

現時点での各省での主な電力制限は_____

- 四川省： 不要な生産は一時停止。しかし、“不要”の明確な定義はなく。。。
- 河南省： 加工企業は月21日以上停電
- 広東省： 週4日停電
- 江蘇省： 年内営業日の半数で停電
- 浙江省： 各四半期20~30日停電
- 山東省： 毎日9時間停電

先週訪問した山東省荷澤市では、市の方針で、週4日停電。それも、工場に直接命じず、管轄発電所に電力シャットダウンを命じる手法(直接工場に生産停止を命じると、国の経済発展方針と矛盾が生じるため)を採っていますが、その地区の優良企業(納税などの面では、政府と交渉し、通常通り稼働していたり。(発電所を止めても電気が届くカラクリは全くの謎ですが、これが、中国の“上有政策下有対策”)。

安全装置の電源も落ちて爆発事故が起こってしまい、一部電力制限をゆるめている地域も。

CASE 2

ピカイチの安定供給だと目されていた中国メーカーA社も、川上原料(中国品)が止まり、供給ストップ。調達難原料が増え、“特定原料のアジア在庫探し”など、ピンポイントな依頼=我々のお役立ちどころが増えております。

CASE 3

供給できるケースでも、販売価格は天井知らず。不便を覚悟で、他国品(インド品、欧米品ほか)への切り替えご検討の仕事も急増。

CASE 4

中国との付き合いの長いお客様ですと、調達安定性のみならず、品質やコストへの相互理解も深く、海運の混乱も想定して、かなり早めに手当を進めて対応いただいております。中国メーカーとの信頼関係も十分で、在庫も積み増し中。嵐が去った時に、きちっと買取を行うなど、結局は長期的な“信頼関係”が効いてきます。

CASE 5

Okahataコリアには(中国産の)尿素水調達の引き合い殺到。これは、弊社には手に負えません。。。



そもそも、なぜ電力制限が起き、いつまで続くのか？

弊社上海の張魏がご説明します。

9月11日の国家発展改革委員会(以下、発改委)による「エネルギー消費強度と総量の双方を改善し制御する制度に関する法案(以下、双控制度)」を皮切りに、各省では、矢継ぎ早に電力制限合戦が始まりました。

中国の電力供給(不足)にまつわる基礎知識

中国の電力供給の約60%は火力発電。

本年3月石炭「闇採掘」を罰する刑法改正し、闇採掘を減らしながらも、本年1-8月期の全国石炭生産量は昨年同期よりも若干増。

9月10日、中国石炭協会が発表した、全国石炭市場報告書によると _____

- 年生産量5000万トン増加の可能性を示唆。
- 8月の石炭輸入量は昨年同期より約39%増加。
- 一方で、8月の石炭消費量の増加速度は低下。

同じく、9月10日の中国工業協会による9月発電用石炭使用予測では _____

- 9月、10月の電力消費は減少(気温が下がるとともに電力の使用量も減少)
- 9月に降雨量が増え、水力発電出力が増加すると予測。

9月10日時点では、火力発電への依存度を落としながら、石炭供給は切らさないという姿勢が読み取れたのですが、いち早くコロナから抜け出した中国には、世界需要が殺到。本年1-8月期の全国発電量は、昨年同期の約14%増で、石炭供給量が発電必要量に追いつかず、「石炭供給不足」に直面。

すでに崩れ始めていた実需と電力供給のアンバランスに輪をかけるように、9月11日(上記発表の翌日)、発改委による「双控制度」が発表され、その1週間後には全国的な電力制限へ。

「双控制度」では2021年のエネルギー消費量の厳しい目標を設定。1—8月に電力を制限なく使用してしまっているため、年間の目標達成のために、(今更ながら)かなり厳しい電力制限をおこなっているのです。目標がリセットされる2022年1月には制限が緩和されると予測していますが、2022年2月には北京オリンピック、秋には共産党大会と、政治的干渉が入る可能性は高く、予断は許しません。

最後に少しPR。既存のサプライヤーからの安定的な調達はもとより、他の地域からの代替ソーシング支援も行っております。“困ったのすぐそばに”、“グローバル&デジタル三河屋の機動力をぜひご活用いただければと思っています。

(この特集記事は、弊社上海の張魏の現地レポート、slackで集めた営業エピソードから構築しました)



構成・文／

岡畑興産株式会社

化学品事業統括

坂出 裕

難題の先にこそチャンスあり。

攻めの姿勢で臨みます。

■ 編集後記

LGBTQIA+

(社内報Gazette2021年11月号より転載)

幼い頃、「女らしくしなさい」「男の子なんだからそのぐらいで泣いてはだめ」と言われたことはありませんか。

10月27日、米務省は男性(M)でも女性(F)でもない性別「X」のパスポートを初めて発行しました。同様のジェンダーインクルーシブパスポートは、カナダやオーストラリア、ニュージーランドでも発行されていますし、米国では少なくとも20州とワシントンDCが、州発行の身分証明書などでも同様の変更が行われています。米務省の「LGBTQIA+の人を含め、全ての人の自由と尊厳、平等を推進する」という声明のように、世界では「LGBTQIA+」が主流となっています。

「LGBTQIA+」ちなみにLGBT以外は、Q…Questioning またはQueer I…Intersex A…Asexual +は文字や言葉で表現しきれない、あらゆるジェンダーやセクシャリティ。これほど長くなると何が何だか分からなくなり、略称を使うことによってかえって「普通じゃないのね」といった感情を持つ人も出てくるのではないか、そんなことを考えている時に『ジェンダーと脳 性別を超える脳の多様性』という本に出会いました。

そこには、私たちの脳は女性的特徴を持つ「女性脳」と男性的特徴を持つ「男性脳」、そしてどちらでもない「中間脳」で構成されている「モザイク脳」で、その割合は一人ひとり違っており、しかも固定的なものではなく、ストレスや環境などによって変化すると書かれていました。それを読んで、意識のあるなしにかかわらず誰の脳にもM・F・Xの要素があり、「性」を区別すること自体に無理があるのではないかと思いました。

最近日本でも「履歴書」から性別欄をなくす企業(厚労省では任意記入を推奨)や制服を男女別ではなくジェンダーレス制服とする学校も出てきました。その一方で夫婦別性さえ認められず、先の衆院選でも「LGBT」と環境問題は票にならないとあからさまに発言する政治家もいました。2021年の「ジェンダーギャップ指数」も日本は153カ国中120位と相変わらず低迷しています。

最近、甥夫婦から出産と命名の挨拶状をもらいました。名前は「まこと」。一般的性別は「女」、上に子供がいますが、名前は「ちあき」で性別は「男」です。彼らが命名時に意識していたかどうかは分かりませんが、名前を見て、MでもFでもXでもいける名前だな、将来、「性別変えても名前変える必要なくてよかった」と感謝されることがあるかもしれないと、妙に感心してしまいました(こんなこと考えるおばさんって怖い?!)。

オードリー・タン氏はある対談で「性的指向を問われたら「私はサピオセクシャルです」と答えます。愛するのはホモ・サピエンスだということ。それが私のスタンダードな回答です」と述べています。こんな大臣が日本にもいたらなあ、とあきらめにも似た思いを抱きつつ、「男っぽい性格」と言われる私の脳のモザイク、見てみたいという気持ちになりました。(kiki)

ニュースレター バックナンバーはこちら

LINK ▶ <https://okahata.wixsite.com/oksite/onl>

ホームページでパートナー登録いただければ、ダウンロードできるようになりました。

LINK ▶ https://okahata.co.jp/onl_member/login.php

岡畑興産株式会社 ニュースレター／毎月発行

2021年11月17日号

発行：岡畑 典裕

岡畑興産株式会社

大阪府大阪市中央区島之内1-5-6

TEL：06-6251-8252 FAX：06-6251-8278

Okahata
OKAHATA&CO.,LTD

OKAHATA NEWS LETTER
2021.11.17 / Issue 018

© 2021 オカハタとアイデアと